

## しんきゅう 広島県鍼灸師会と 災害時の協力協定を締結

市と一般社団法人広島県鍼灸師会は12月3日、災害時の協力協定を結びました。大規模災害時に鍼灸師が避難所や防災拠点を訪れ、避難者などに無料で施術を行うほか、健康相談などに応じる予定です。平成30年7月豪雨の際に、同会が市内で支援活動を行なったことがきっかけとなり、協定の締結に至りました。

☎危機管理課(☎0848・67・6066)

協定書を交わした広島県鍼灸師会の岡田静治郎会長(写真左)と岡田市長▶



## 生協ひろしまと幅広い分野で協力 包括連携協定を締結

市と生活協同組合ひろしまは11月22日、子育て支援や高齢者福祉、情報発信など幅広い分野で協力・連携する協定を締結しました。具体的な取り組みとして児童館でのイベントの開催や、組合員への市のチラシなどの配布、配達時の見守りなどが行われる予定です。両者は地域活性化や市民サービス向上に向けて、協力・連携して取り組んでいきます。

☎経営企画課(☎0848・67・6270)

協定書を掲げる生協ひろしまの横山弘成専務理事(写真中左)と岡田市長▶



## 三原特別支援学校の生徒が 「みはらしっテーブル」を市に寄贈

三原特別支援学校高等部2・3年生の木工グループの生徒と地元の家具屋・サクラサク代表の植原健司さんが12月9日に市役所を訪れ、三原市の地形をモチーフにしたオリジナルの製品「みはらしっテーブル」を寄贈しました。テーブルはコロナ禍でも「おうち時間を楽しんでもらおう」と生徒が企画。植原さんと一緒に製作しました。寄贈されたテーブルは、市関係施設で活用されます。

☎社会福祉課(☎0848・67・6060)



## フクシカケルミハラを開催

12月3日～9日の障害者週間に合わせ、啓発イベント「フクシカケルミハラ」が行われました。「『楽しみながら』障害者福祉の事を知ってもらおう」をテーマに、市内の作業所・福祉施設などが一体となってアート展やショップ、カフェを開きました。このうち、芸術文化センターポポロの「ハンドサイン(手話)カフェ」では、来場者が三原ろうあ協会や手話サークルの会員から「コーヒー」や「ケーキ」などの手話を教わり、実際に注文するなどして交流を楽しみました。



## 糸崎小の児童が オリジナルの米粉パンを考案

糸崎小学校の5・6年生が11月27日、株式会社八天堂と共同で商品化するオリジナル米粉パンのレシピを考案し、発表しました。キャリア教育の一環で、三原市をアピールすることが目的。児童たちは6班に分かれタブレットなどを使い、パンのコンセプトや工夫した点などを、分かりやすく説明しました。最優秀賞にはパンの中にたこ焼きが入った「ベニピリたこやきパン」が選ばれ、商品化が決定しました。1月下旬から市内の店舗などで販売される予定です。

☎学校教育課(☎0848・67・6155)



## 三原高校生が 市のPR映像作りに取り組む

三原高校の2年生12人が市をPRする映像の企画を考え、12月16日に発表しました。市のシティプロモーション推進事業の一環で、生徒たちは3班に分かれて映像のテーマや内容、ターゲットなどについて説明。「やっさだるマンが高校生に扮して、三原の事を紹介する」などのアイデアを発表しました。生徒たちは今後、撮影・編集などを行い、3月中に映像を完成させる予定です。

☎広報戦略課(☎0848・67・6007)

